

世界の異常気象速報(臨時)

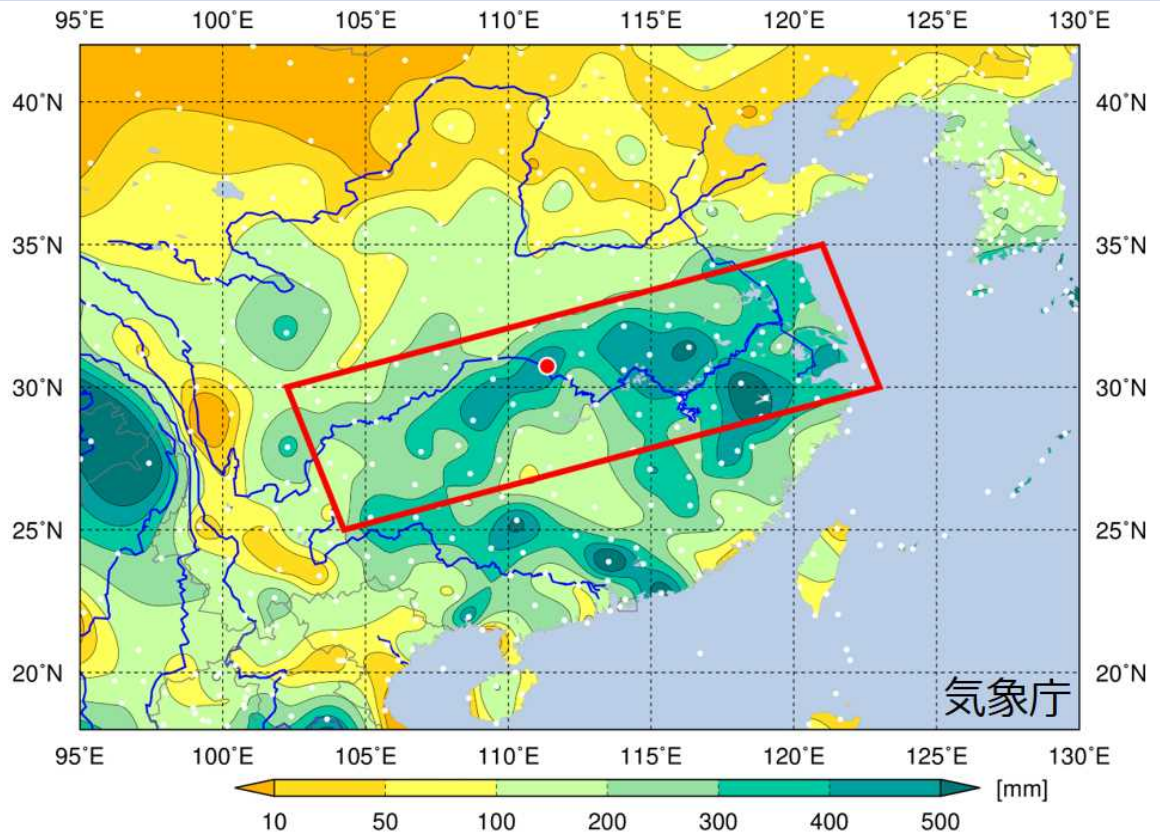
世界の異常気象や気象災害のうち、顕著な事例について、その状況等を速報としてまとめた情報です。

発表年月日と異常気象:

過去に発表した情報は、以下のページからご覧になれます。

[過去に発表した情報\(発表順\)](#)

[過去に発表した情報\(地域別\)](#)

中国の長江中・下流域での大雨について	
発表日	令和2年7月8日
概要	中国の長江中・下流域では、6月中旬以降、高気圧の縁辺を回る暖かく湿った気流が持続的に流入し、梅雨前線の活動が活発になったことにより、6月の降水量(下図赤枠内観測値の平均)が過去24年間で1999年に次いで2番目に多くなりました。中国では、6月の大雨による死者・行方不明者の合計が100人を超えたと伝えられています(7月3日時点、中国政府の情報による)。
気象実況(分布図)	 <p>降水量分布図(2020年6月) 単位mm。各国気象局の通報に基づき、気象庁で作成。地図中の白い点は降水量の観測地点を、赤丸はイーチャン(宜昌)を表す。赤枠は積算降水量の計算に用いた地点の範囲を示す。</p> <p>長江中・下流域では、2020年6月の積算降水量が300mmを超えた地点が多く見られました。フーペイ(湖北省)イーチャン(宜昌)では508mmを観測し、1982年以降では6月としては1983年の292mmを上回り最も多くなりました(平年比約350%)。</p>

<p>気象実況 (時系列図)</p>	<p style="text-align: center;">(mm) 長江中・下流域の積算降水量</p> <p>長江中・下流域の積算降水量(6月1日～7月31日)。 単位mm。地図(左上)の赤枠内にある長江中・下流域の60観測地点で平均した積算降水量。中国気象局の通報(速報値)に基づき、気象庁で作成。各折れ線グラフ(実線)は1997年以降の各年の6月1日からの積算降水量(2020年は7月6日まで)で、赤色が2020年(本年)、青色が1998年、黄緑色が1999年、ピンクが2016年、灰色がその他の年を示す。破線は1997年から2019年までの23年間の平均値。</p> <p>長江中・下流域では、2020年6月の降水量は過去23年間の平均の約1.5倍となり、1997年以降で6月としては1999年に次いで2番目に多くなりました。また、7月に入っても平年を上回る降水が続いています。</p>
<p>見通し</p>	<p>中国気象局が7月7日に発表した予報によると、今後1週間程度は、降水量が平年より多い地域がある見込みです。</p> <p>(参考)中国気象局が発表している予報は以下のURLで見ることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国気象局: http://www.nmc.cn/publish/bulletin/mid-range.htm
<p>※各観測地点における毎日の気温・降水量については、気象庁ホームページ「世界の天候データツール(ClimatView 日別値)」でご覧頂けます。</p> <p>https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/monitor/dailyview/</p>	